ISSN 2758-9781

特集　コンフリクトへの挑戦－紛争・対立をめぐる福祉・ソーシャルワークのアプローチを考える－

コンフリクトへの挑戦
―紛争・対立をめぐる福祉・ソーシャルワークのアプローチを考える―

森　恭子

Challenging Conflicts:
Considering Welfare and Social Work Approaches to Conflict and Confrontation

Kyoko MORI

皆さん，こんにちは．本日は日本女子大学の学内学会にご参加いただき，誠にありがとうございます．今年の学内学会の大会のテーマは「コンフリクトへの挑戦－紛争・対立をめぐる福祉・ソーシャルワークのアプローチを考える－」です．ここから司会を務めます，日本女子大学の教員の森と申します．どうぞよろしくお願いいたします．

最初に，大会の趣旨をご説明いたします．ご存じのように，今年の２月にロシア軍によるウクライナ侵攻が始まり，現在も戦争状態は続いております．それによって多くのウクライナの人たちが国外に逃れることになり，日本でも９月20日時点で1,925名の方を避難民として受け入れております．ウクライナ情勢につきましては，連日のように報道されたこともあり，ウクライナな人たちを助けたいとか，あるいは戦争反対という声が高まって市民社会の人たちの関心が，今，難民問題や戦争問題に向いていると思います．日本女子大学の社会福祉学科もこうした状況の中，福祉関係者や福祉を学ぶ若い人たちが難民や紛争の問題を考える良い機会ではないかと思い，今年度はこのテーマとさせていただきました．

ところで，この学内学会を最初に立ち上げました本学の名誉教授でいらっしゃいます，一番ヶ瀬康子教授ですが，ちょうど今から10年前の先月お亡くなりになりました．一番ヶ瀬先生は「平和なくして福祉なし」という言葉をモットーにされておりました．2000年に旬報社から出版されました『国際社会福祉』という本がございますが，この中で何人かの福祉研究者の人たちが，21世紀に向けての福祉の課題ということで座談会をしております．その中で一番ヶ瀬先生もディスカッションしているわけですが，そのときに地球の危機の問題として，環境問題と並んで平和問題を取り上げていらっしゃいました．これらの問題に，どのように福祉が対応していくのかということが，21世紀の福祉課題の中で問われるということを述べてらっしゃいます．20年前，既にこうした先見の明がおありになったわけですけれども，福祉関係者の中で戦争ですとか紛争，そして難民問題ということが，特に日本の福祉教育の中ではあまり取り上げられていなかったんではないかと思います．

私事ですけれども，20年前にオーストラリアのシドニー大学に留学しておりましたが，そのときに福祉の授業で「ピース＆コンフリクト」とい

う授業がありまして，「平和と紛争」ということですが，あまりにも紛争とか平和っていう問題は大きなテーマすぎて，その当時，私は全く関心がなかったので非常に勉強しなかったことを反省しております．このたび，ウクライナの情勢をきっかけに，私自身もコンフリクトについて勉強していきたいと思っています．

それでは，今回のシンポジストの方々のご紹介をしたいと思います．最初の登壇者の方は，ヴィラーグ・ヴィクトル様です．ヴィラーグ様は，現在，社会事業大学の准教授をされていらっしゃいます．ご専門は国際社会福祉，多様性に対応したソーシャルワークです．日本のアイヌの問題のご研究から，最近は異文化的視点から介護現場で働く外国人同僚との関わり方など，本も多く出版されて，非常に幅広くご研究されていらっしゃいます．また社会活動として，国際ソーシャルワーカー連盟アジア太平洋地域の財務担当，日本ソーシャルワーカー協会理事など，職能団体の活動にも非常に多く携わっていらっしゃいます．私とのご縁は，一緒に国際ソーシャルワーク研究会を立ち上げたときのメンバーでもございます．本日，ヴィラーグ先生には，ウクライナ危機を通して国内外のソーシャルワーク専門職団体がどのような支援をしているのかについてお話しいただきます．

二人目のシンポジストは石川美絵子様です．日本女子大学と同じ文京区にあります，社会福祉法人日本国際社会事業団，略しましてISSJと呼ばれていますが，そこで常務理事をされていらっしゃいます．しかし，同時に石川様は社会福祉士の資格を持ったソーシャルワーカーでもあり，現場の実践にも取り組んでらっしゃいます．ISSJは，主に外国にルーツを持つ家族や難民支援，国際養子縁組などの活動をしていらっしゃいます．私とのご縁は，いろいろありますが，最近では外国にルーツを持つ子どもの支援プロジェクトなどに一緒にご一緒させていただきました．かつて私はISSJに30年ぐらい前にソーシャルワーカーとして勤務しておりました．国際領域の分野にいち早くソーシャルワーカーを採用し，日本女子大学の卒業生も多く働いていた国際福祉分野での草分け的存在の支援団体です．石川様には，ウクライナ問題以前から日本の難民問題の現状や支援の課題についてもお話ししていただきます．今回，現場の支援をしている人たちは，ウクライナの避難民の支援と，従来から日本にいらっしゃいます難民や難民申請者の人たちとは，日本政府をはじめとして支援に雲泥の差があるということを実感されていると思います．どうしてもウクライナの方々に目が行きがちですけれども，そのほかの難民問題が日本の中で非常に根深いということも本日皆さんに知っていただければと思います．

そして３人目のシンポジストは，西川ハンナ先生です．西川先生は現在，創価大学で准教授をされております．ご専門は，ソーシャルワークの価値と倫理，ソーシャルワーカー教育・訓練，地域福祉実践です．また，日本社会福祉教育学会の理事をされていらっしゃいます．私とのご縁は，現在，文科省の科学研究費で地域再生とソーシャルワークに関する研究に共同で取り組んでおります．西川先生は最近，中央法規の『ソーシャルワークの理論と方法』という教科書でコンフリクト・レゾリューションについて執筆されていらっしゃいます．恐らく，日本のソーシャルワークのいわゆるテキストの中で，こうしたコンフリクトの話題が取り上げられるというのは初めてだと思います．コンフリクトは単なる紛争だけではなく，心の葛藤や人の対立など幅広い意味がございますが，今後，多様な人たちとの共生社会を推進する中で，異質な人たちとの対立というのは避けられないかなと思います．結局，紛争やテロというものも，最終的には対立というのが激化した形ですので，その前にやはり防ぐということが重要になってきます．そのため福祉専門職にとって，コ

ンフリクトを解決していくというスキルを身につけていくことは重要になってきます．西川先生にはコンフリクトとは？　という理論的なお話，そして，ソーシャルワークにとってコンフリクト解決スキルを身につけていくことの意義ということのなどについてお話ししていただきます．